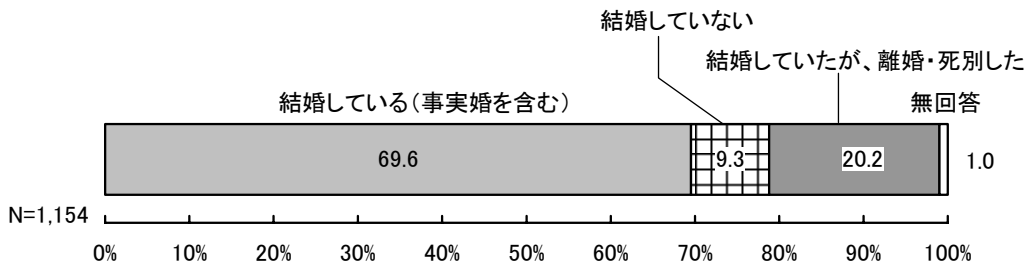


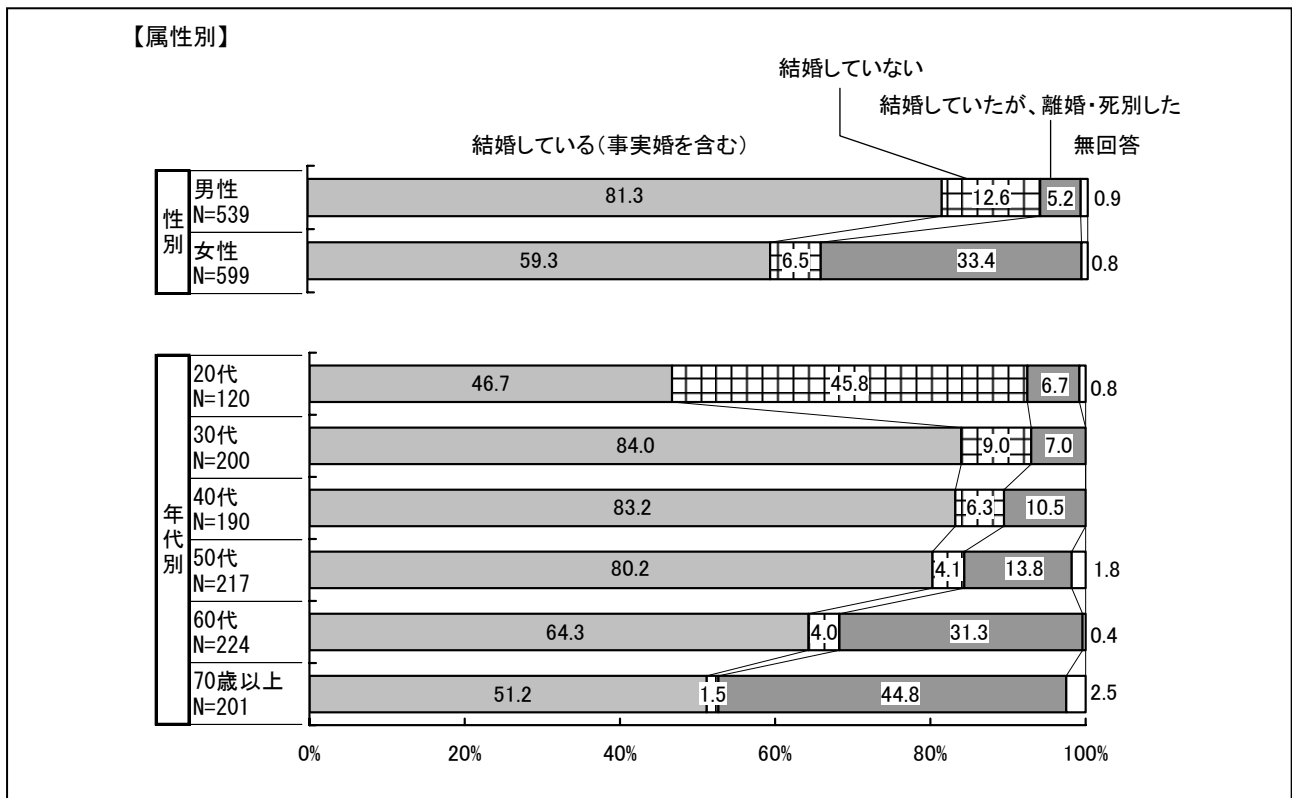
◆男女共同参画について

問 11 あなたは結婚していますか。(1つに○)



「結婚している」は約7割、「結婚していたが、離婚・死別した」が約2割。年代が高いほど「結婚していたが、離婚・死別した」が高い割合となっている。

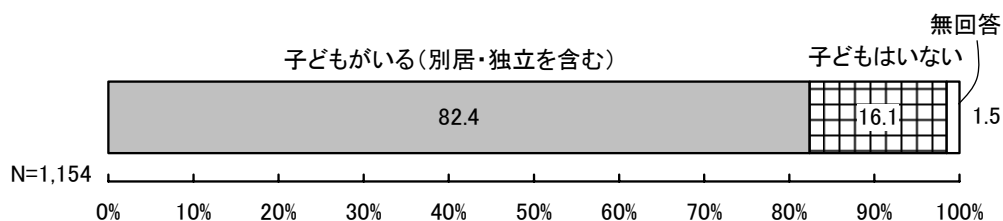
未既婚の状況は、「結婚している(事実婚を含む)」が69.6%、「結婚していたが、離婚・死別した」が20.2%と、結婚経験者が大半を占めている。一方、「結婚していない」は9.3%と1割に満たない。



性別にみると、「結婚している」「結婚していない」のいずれも男性が女性を大きく上回っている。女性は「結婚していたが、離婚・死別した」が3人に1人の割合を占めている。

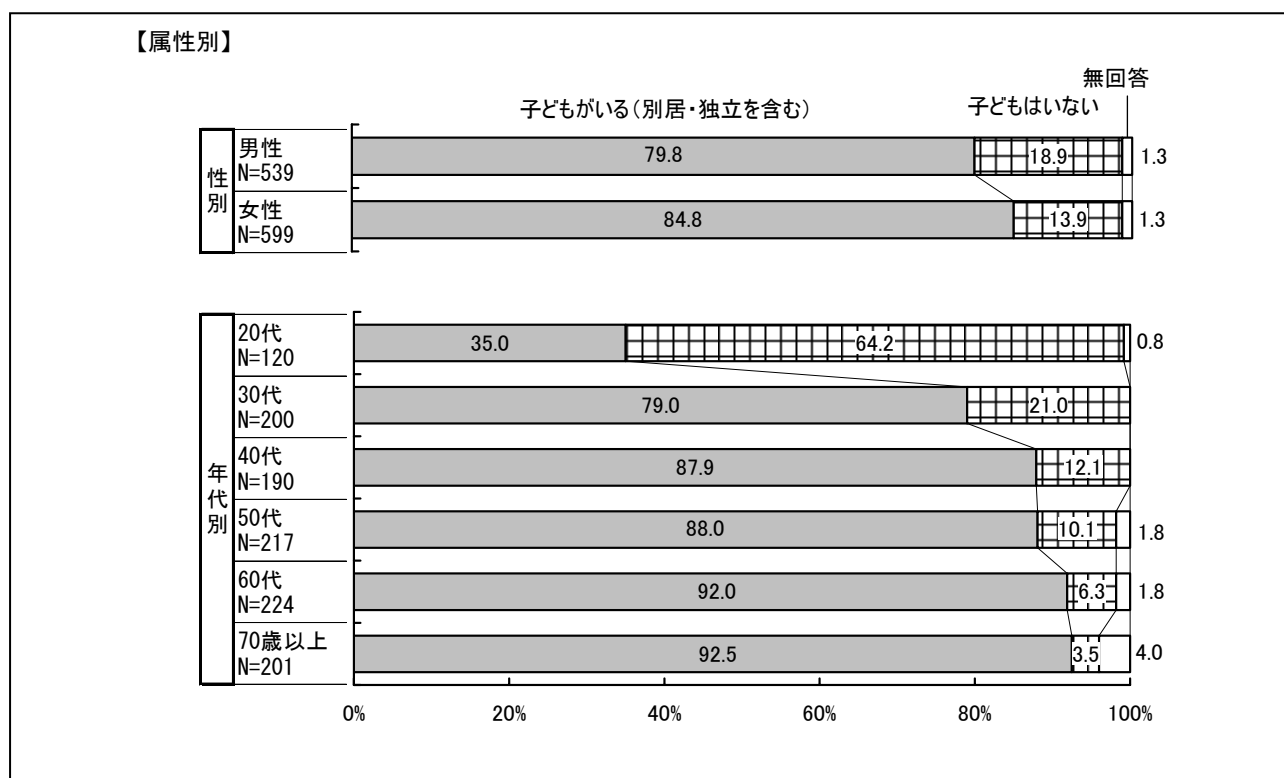
年代別では「結婚していない」は年代が高くなるほど低くなり、「結婚していたが、離婚・死別した」が高い割合になっている。

問12 あなたにお子さんはいますか。



子どもがいる割合が8割。
年代が高いほどいる割合は高く、60代以上は9割。

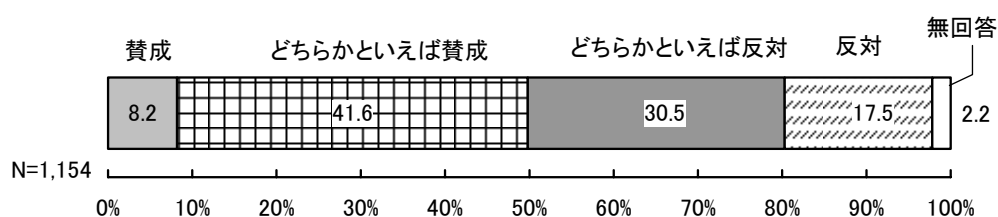
子どもの有無は、「子どもがいる（別居・独立を含む）」が82.4%と大半である。



性別にみると、「子どもがいる」は、女性が男性を5.0ポイント上回っている。

年代別では、「子どもがいる」は年代が高いほど割合が高くなっている。

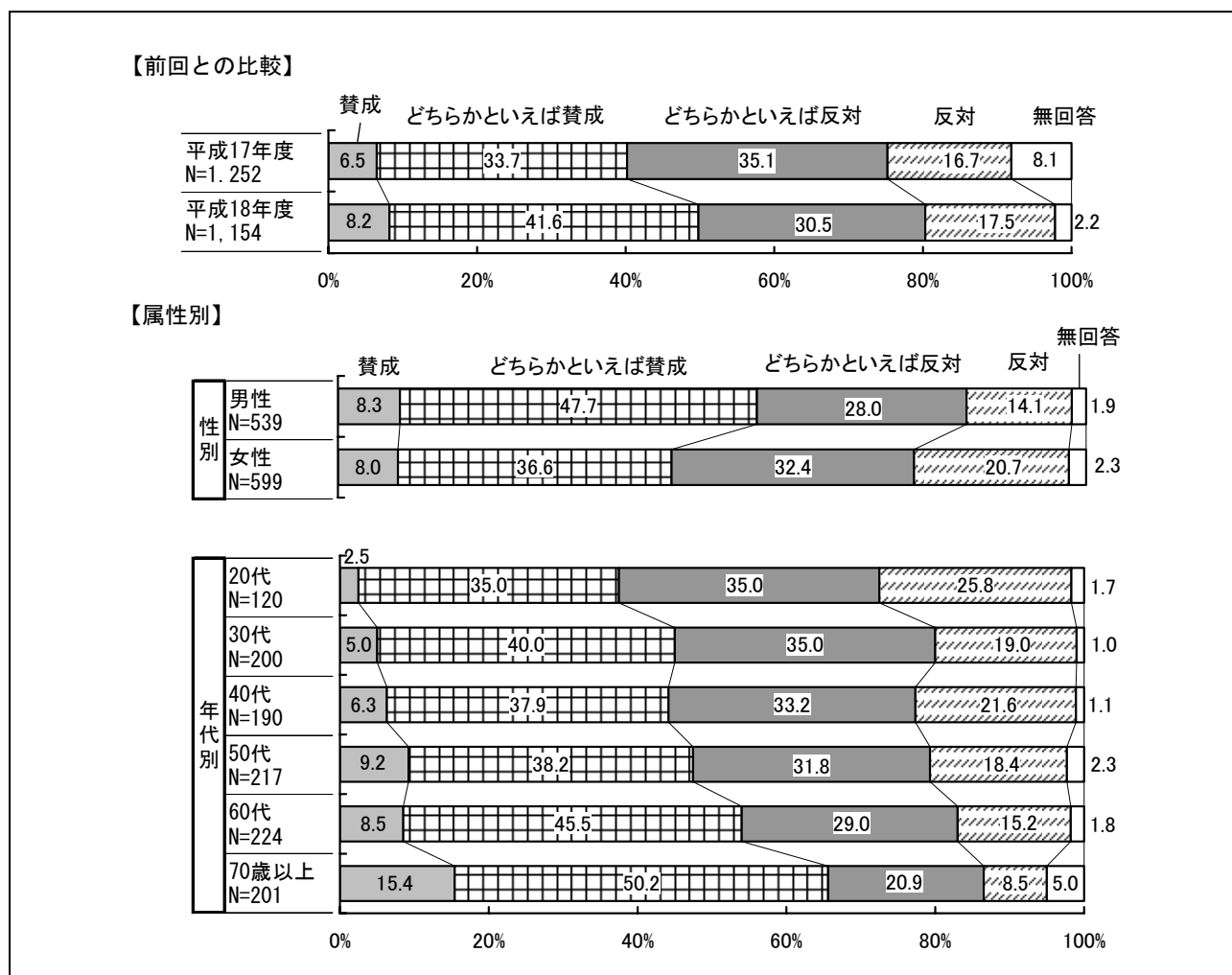
問 13 「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担の考え方をどう思いますか。(1つに○)



「男は仕事、女は家庭」の考え方に、“賛成”“反対”がほぼ同率。前回に比べて“賛成”が高くなっている。高年代ほど“賛成”が多い。

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識は、「どちらかといえば賛成」が 41.6%で最も高い割合を占めている。「賛成」と合わせると約半数となり、「賛成」「反対」は、ほぼ均等に分かれている。

下記のグラフのように前回と比較してみると、「賛成」、「どちらかといえば賛成」のいずれも前を上回り、合わせた“賛成”は、前回より約 10 ポイント高くなっている。

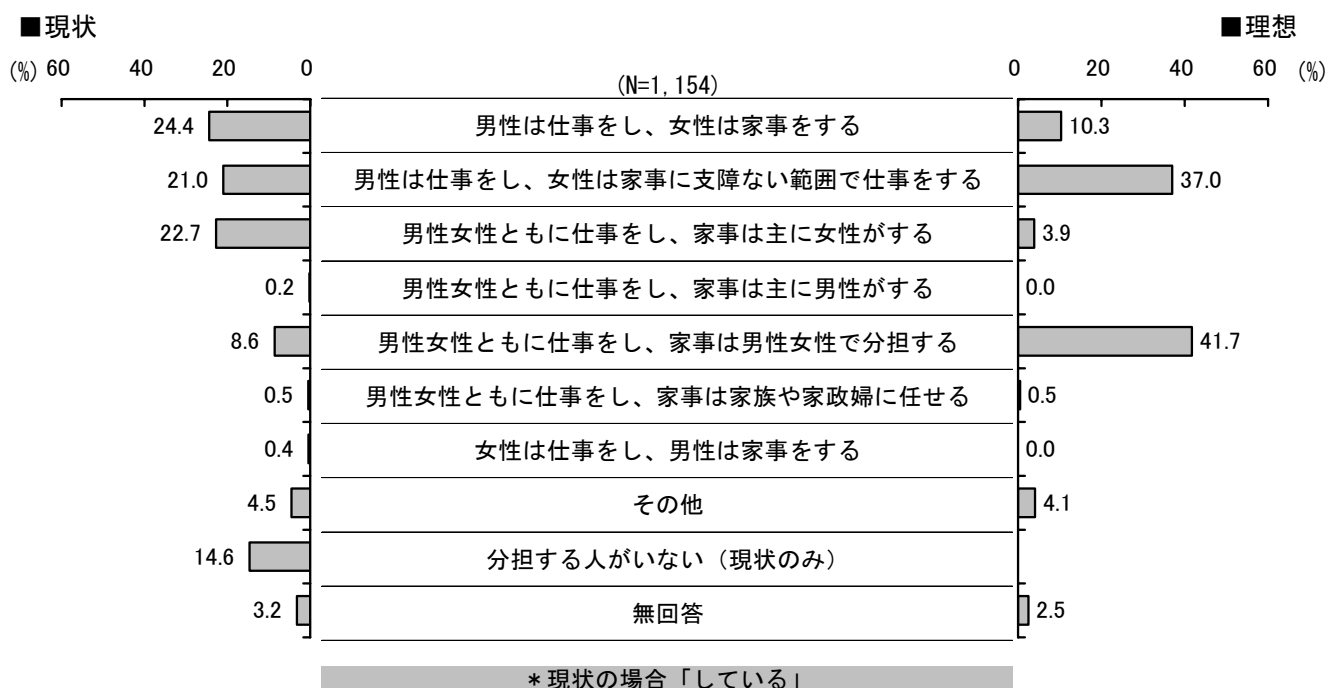


性別にみると、“反対”は女性が男性を大きく上回り、過半数を占めている。

年代別にみると、“賛成”は年代が高いほど割合が高くなる傾向である。“賛成”と“反対”の割合は60代で逆転している。

問14 あなたのご家庭では、主にどのような役割分担となっていますか。(1つに○)

問15 本来は、どのような役割分担が望ましいと思いますか。(1つに○)



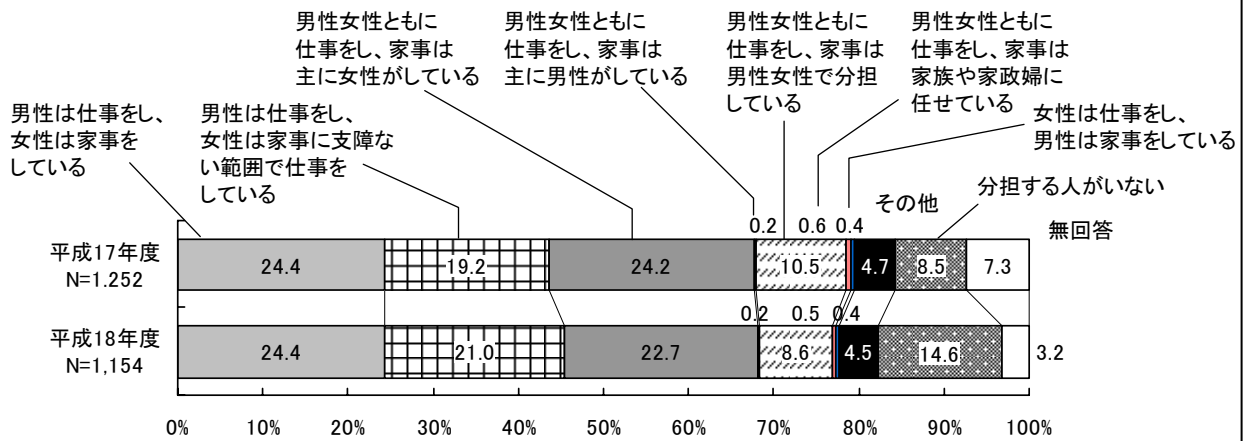
現状は、いわゆる性別役割分担が顕著に現れているが、理想は「男性女性ともに仕事、家事は男性女性で分担」が最も多い回答。理想は、性別、年代別による違いが明確である。

家庭内の役割分担の現状は、「男性は仕事をし、女性は家事をしている」が24.4%で最も高く、次いで「男性女性ともに仕事をし、家事は主に女性がしている」が22.7%、「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をしている」が21.0%と続き、大半が前設問のように、「男は仕事、女は家庭」という現状であることがうかがえる。

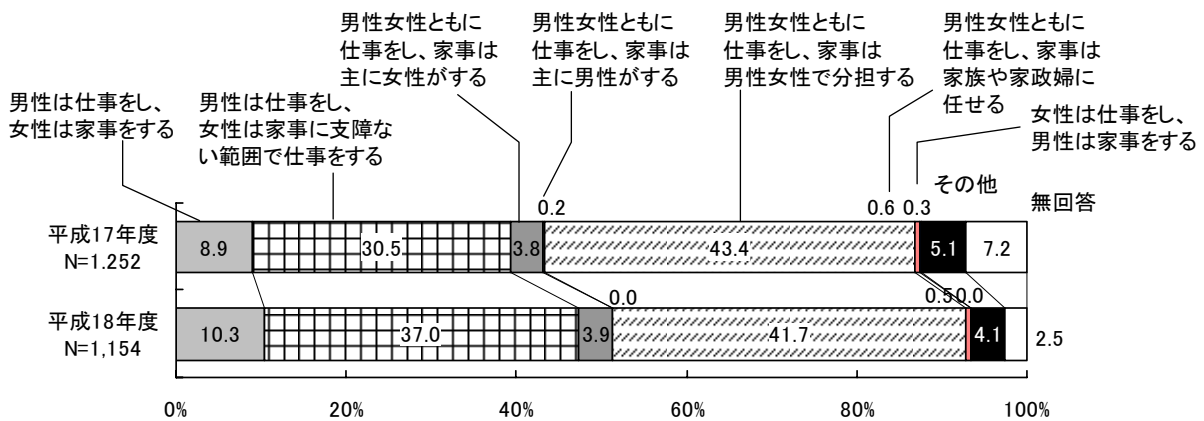
一方、本来望ましいと考える役割分担は、「男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する」が41.7%で最も多くなっており、次いで「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をする」が37.0%と続き、主に以上の項目に2分されているといえるが、「男性は仕事をし、女性は家事をする」にも1割の回答がみられる。

【前回との比較】

■役割分担（現状）

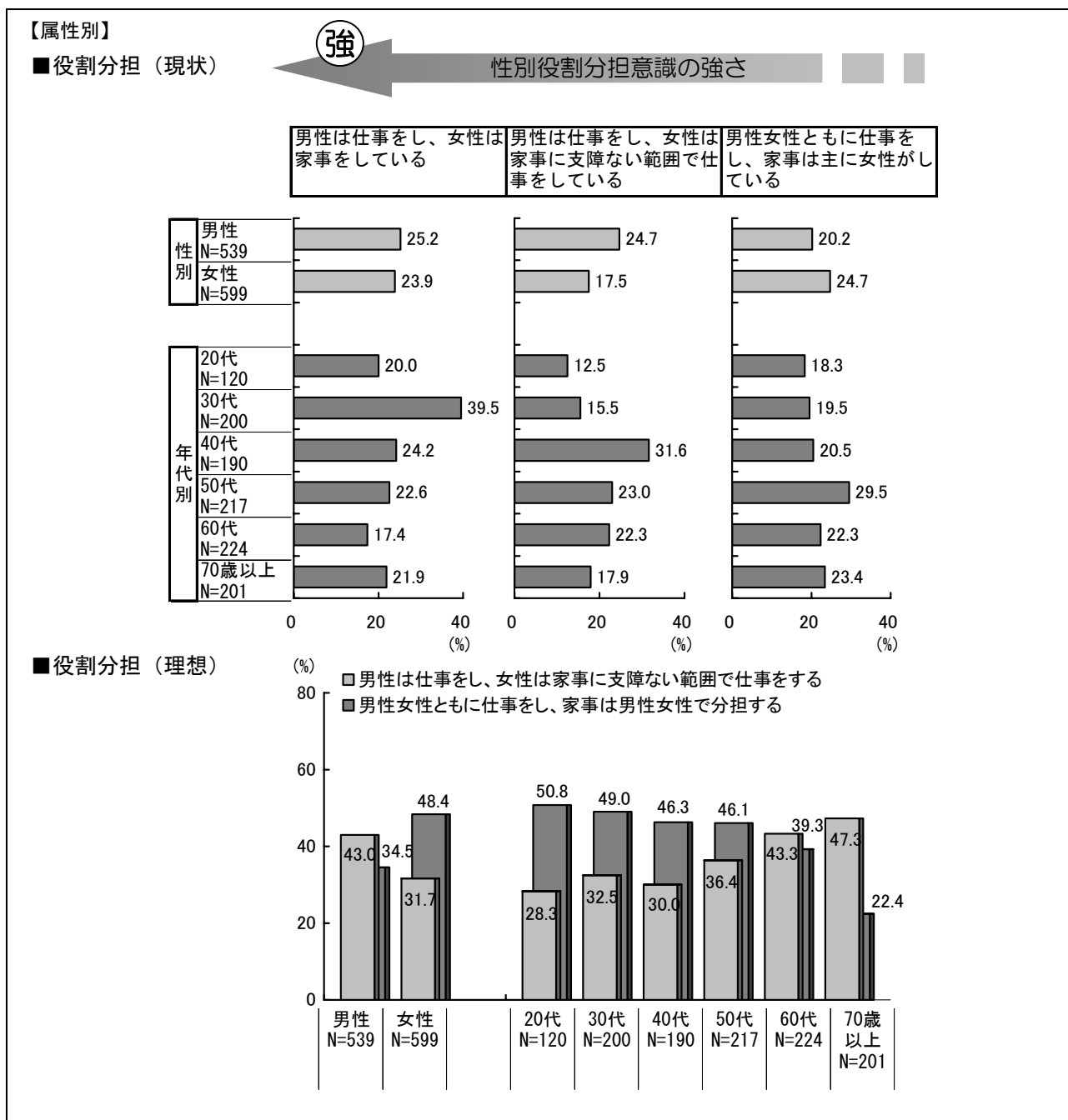


■役割分担（理想）



役割分担の現状を、前回の調査と比較すると、大差がみられるのは「分担する人がいない」のみで、他は1～2ポイントの差にとどまっている。

一方、理想の役割分担は、「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をする」が前回を6.5ポイントと大きく上回っている。



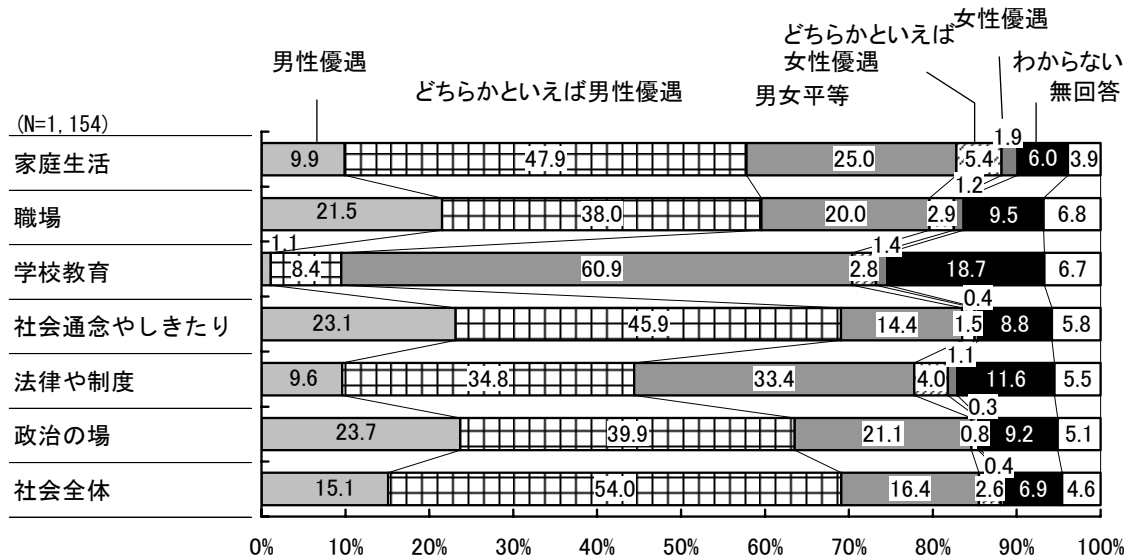
役割分担の現状について、回答の多い3項目を役割分担意識の強い順に、属性別にみると、性別では、「男性女性ともに仕事をし、家事は主に女性がしている」のみ、女性が男性を上回っている。

同じく年代別では、「男性は仕事をし、女性は家事をしている」は30代で目立って高くなっており、役割分担意識が弱くなるほど、年代が一段階ずつ高くなっている。「男性女性ともに仕事をし、家事は主に女性がしている」は50代が最も高い。

また、理想の役割分担については、全体で回答の集中した2項目を比較してみると、性別でみた場合、「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をする」は男性が女性を大きく上回っているが、「男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する」は逆転で女性が男性を大きく上回っている。

同じく年代別では、「男性は仕事をし、女性は家事に支障ない範囲で仕事をする」は年代が高いほど割合が高い傾向で、「男性女性ともに仕事をし、家事は男性女性で分担する」は前者に反比例し、年代が上がるほど低い割合となっている。

問 16 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(各分野で1つずつ〇)

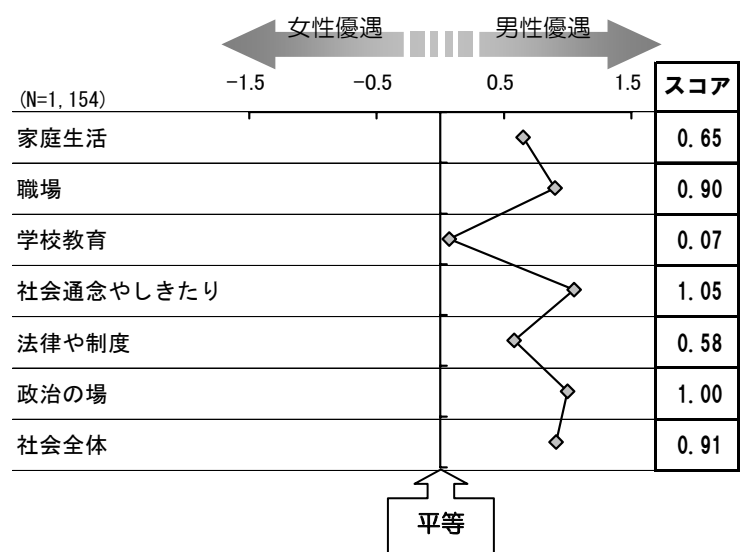


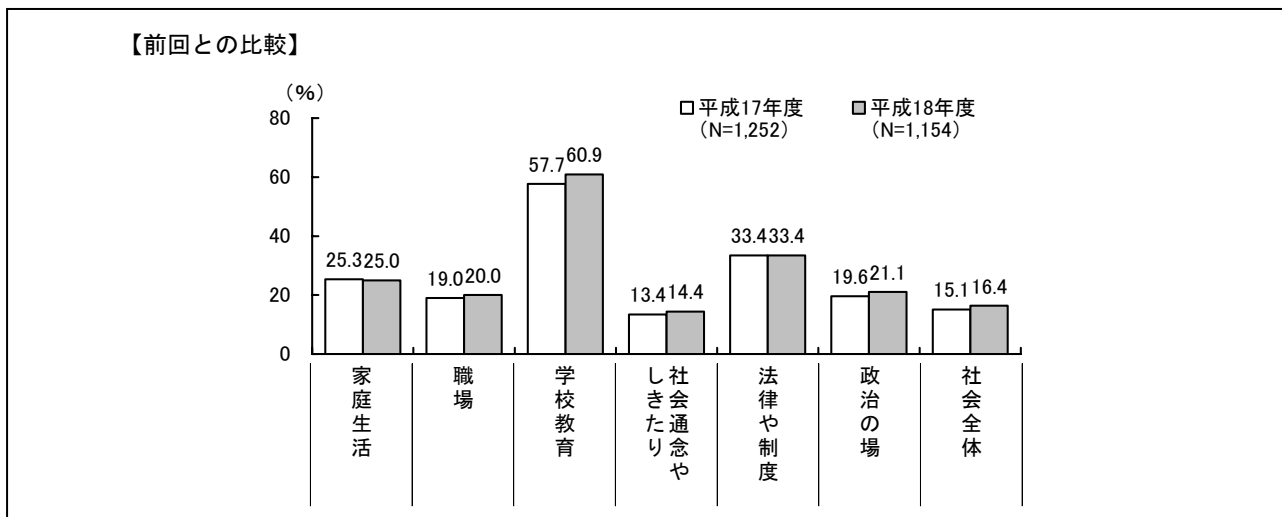
スコア：「男性優遇」=2「どちらかといえば男性優遇」=1「男女平等」=0「どちらかといえば女性優遇」=-1「女性優遇」=-2
 ※上記を回答人数に掛け、回答総数（無回答を除く）で除したもの

男女の地位の格差が感じられる分野は『社会通念やしきたり』『社会全体』。
 7割前後が“男性優遇”と回答。『学校教育』における平等感は前回より高い。

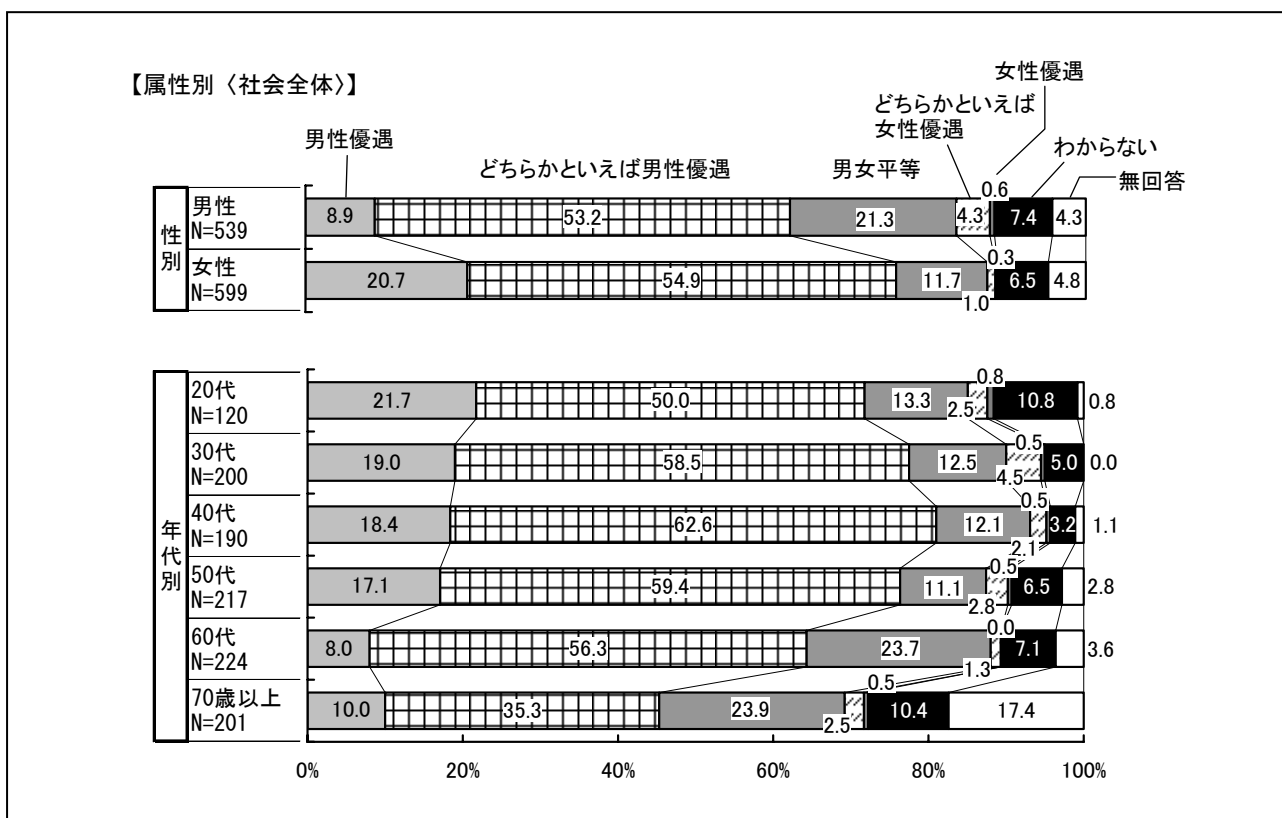
7つの分野について、男女の地位の平等感をみると、「男女平等」が最も高いのは『学校教育』で、60.9%と過半数になっている。次いで『法律や制度』で高く、33.4%となっている。「どちらかといえば男性優遇」を合わせて“男性優遇”の割合をみると、『社会通念やしきたり』、『社会全体』で7割前後の回答がみられる。

平等感について、上記のように算出したスコアをみると、マイナスの分野はみられず、平等の割合が高い『学校教育』で0.07と限りなく平等スコアに近いが、他はすべて男性優遇を意味する方向にスコアが位置している。特に『社会通念やしきたり』は1.05と男性優遇感が強い。





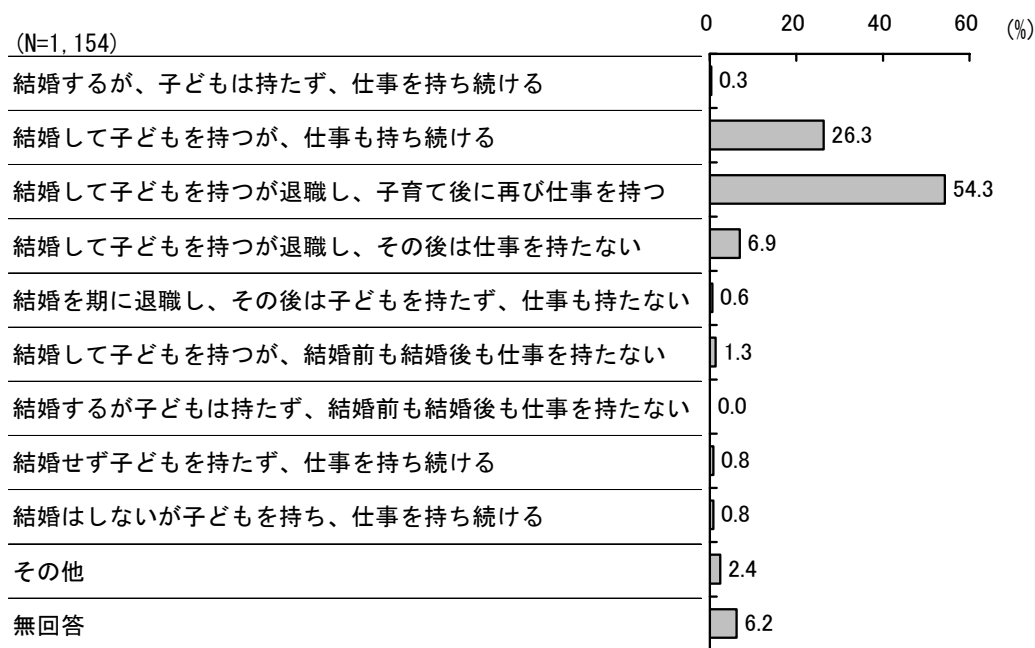
前回と「男女平等」の回答について比較してみると、いずれもほとんど差はないが、わずかに今回の回答率が高い分野が多い。中でも、「男女平等」の回答が多い『学校教育』は、3.2ポイントと他に比べて差が大きくなっている。



『社会全体』の平等感について性別にみると、女性は「男性優遇」、「どちらかといえば男性優遇」のいずれも男性より高くなっており、特に「男性優遇」については11.8ポイント上回り、2割を占めている。一方「男女平等」への回答は、男性が2割で女性は1割となっている。

年代別にみると、「男性優遇」は年代が高いほど割合が低くなる傾向であるが、「どちらかといえば男性優遇」を合わせてみると、40代まで増加しており、それ以降減少している。

問 17 「女性の生き方」として、あなたの理想に最も近いものはどれですか。(1つに〇)



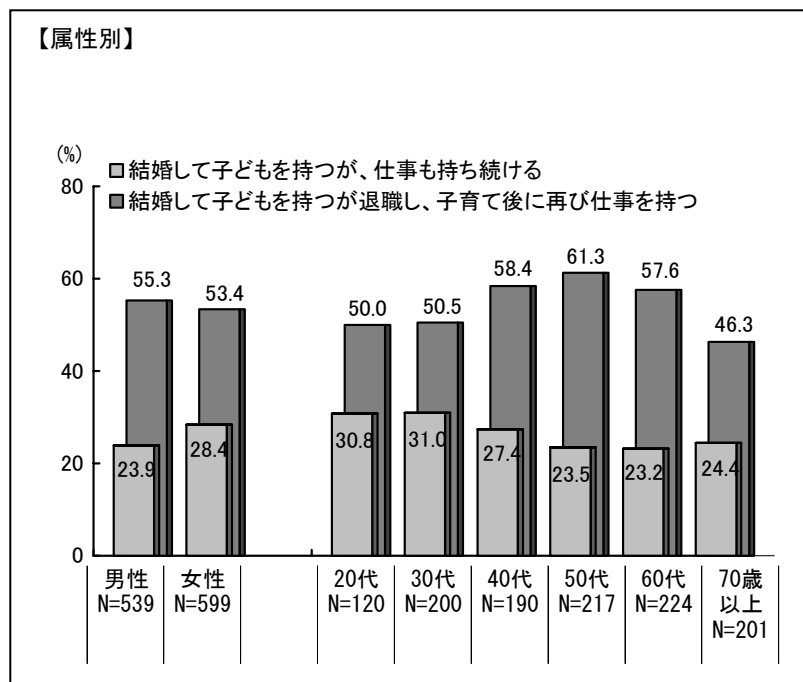
『女性の生き方』の理想は、主に2項目。

「結婚して子どもを持つが退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が過半数を占める。

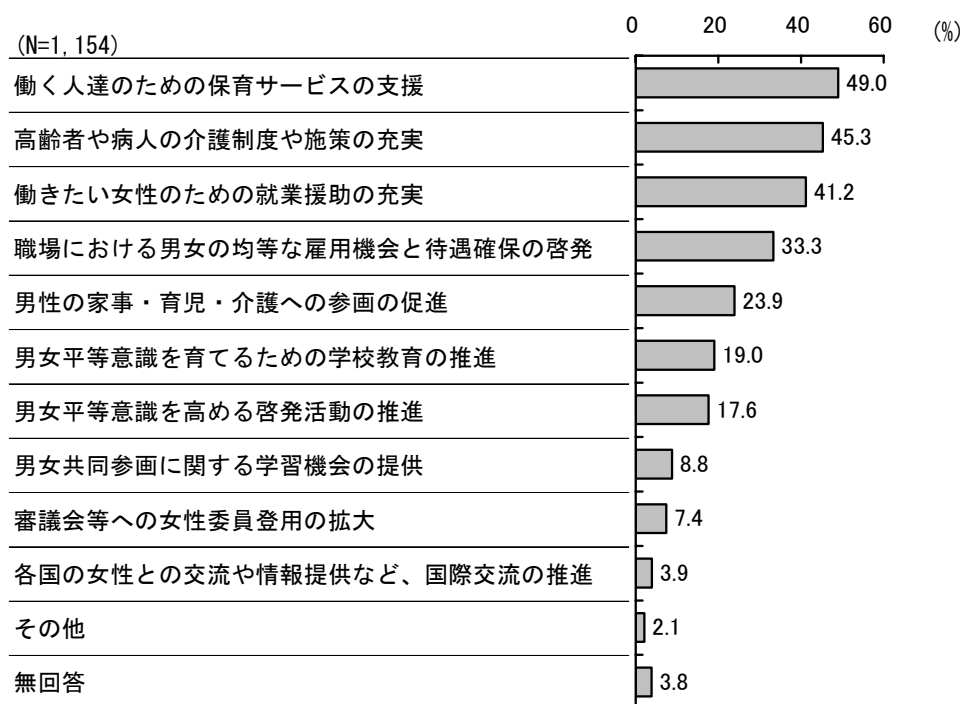
『女性の生き方』としての理想は、「結婚して子どもを持つが退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が最も高い割合で、過半数を占めている。次いで「結婚して子どもを持つが、仕事もち続ける」が26.3%で約4人に1人の割合となっている。

主な回答といえる2項目に注目して、性別にみると、「結婚して子どもを持つが、仕事もち続ける」は、女性が男性を5ポイント近く上回っている。反対に「結婚して子どもを持つが退職し、子育て後に再び仕事を持つ」は男性がわずかに高い。

また、同様に年代別にみると、2項目は反比例の形となり、年代の低い方が「結婚して子どもを持つが、仕事もち続ける」が高く、40代、50代の中高年代になると「結婚して子どもを持つが退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が高く、グラフでは50代を中心に山を描く形になっている。



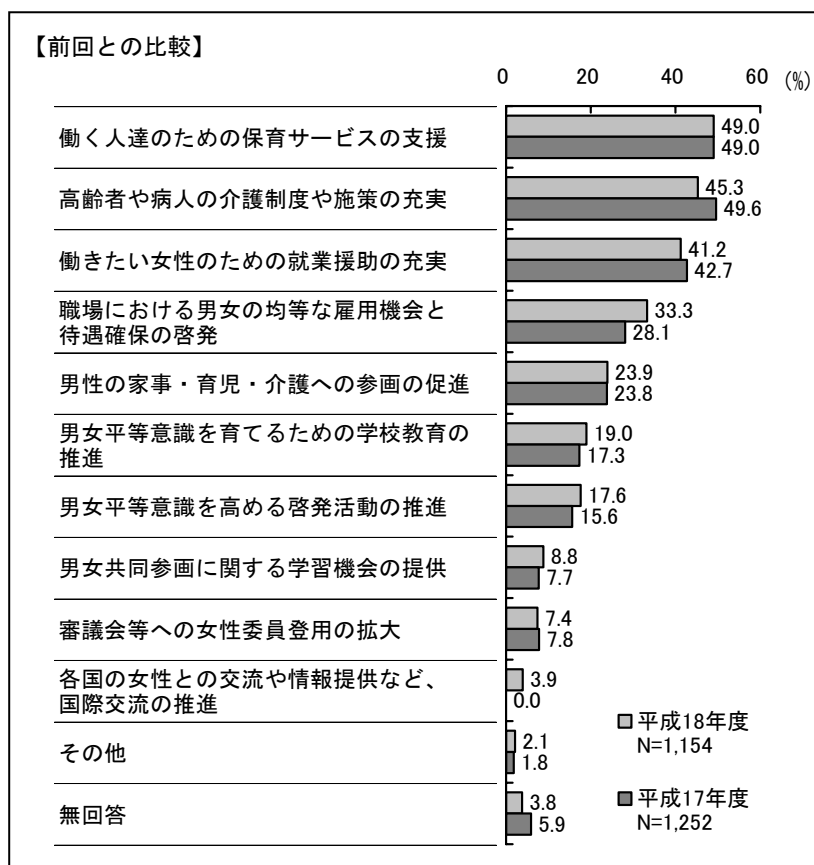
問 18 男女共同参画社会の実現に向けて、今後、行政が特に力を入れるべきことは、次のうちどれだと思いますか。(3つまで○)



男女共同参画社会の実現に対する要望は、支援や施策の充実など、具体策は女性が高く、男性は、男女共同参画意識の啓発で女性より高い割合。

男女共同参画社会の実現に向けて、行政が力を入れるべき項目は、「働く人達のための保育サービスの支援」が49.0%で最も多く、次いで「高齢者や病人の介護制度や施策の充実」が45.3%、「働きたい女性のための就業援助の充実」が41.2%の順で、以上3項目で4割を超えている。

前回と比較すると、上位3項目は同様であるが順位が入れ替わり、今回は「高齢者や病人の介護制度や施策の充実」が49.6%で最も多くなっている。割合としては4.3ポイント前回が高い。一方「職場における男女の均等な雇用機会と待遇確保の啓発」は、今回は5.2ポイント上回っており、差が目立つ項目である。



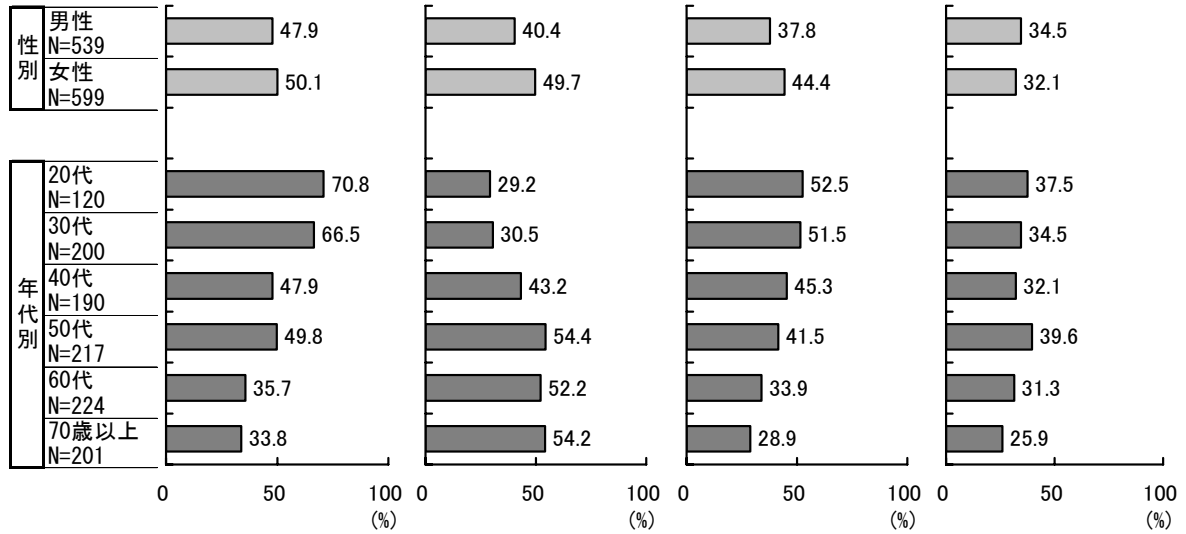
【属性別】

働く人達のための
保育サービスの支援

高齢者や病人の
介護制度や施策
の充実

働きたい女性のための
就業援助の充実

職場における男女の
均等な雇用機会と
待遇確保の啓発

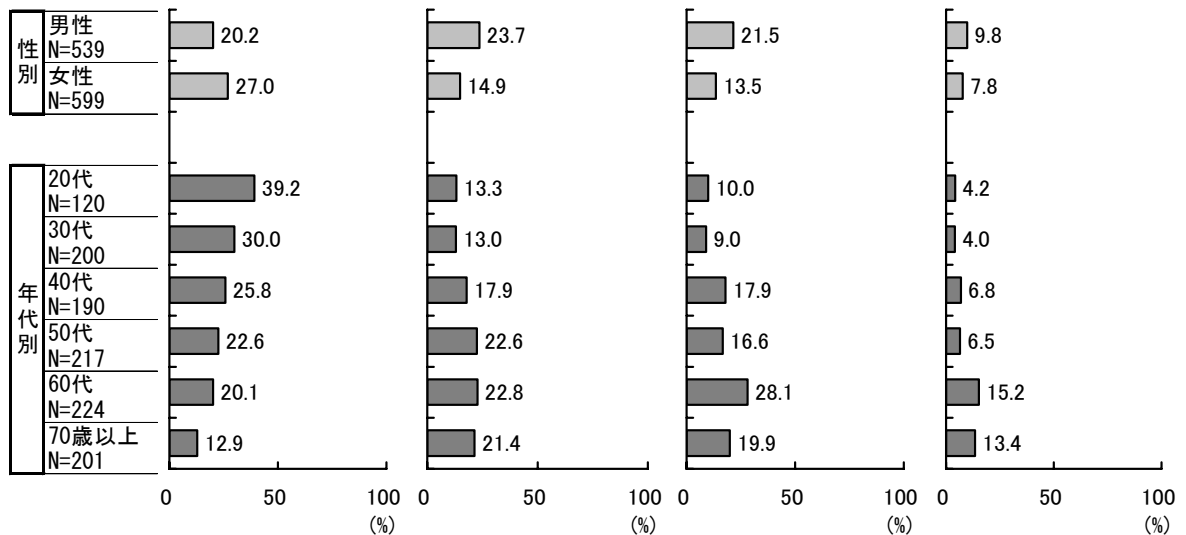


男性の家事・育児・
介護への参画の促進

男女平等意識を育てる
ための学校教育の推進

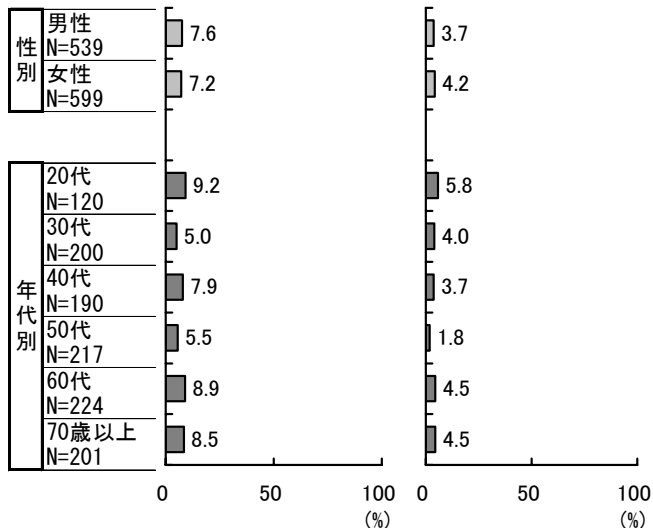
男女平等意識を高める
啓発活動の推進

男女共同参画に関する
学習機会の提供



審議会等への
女性委員登用の拡大

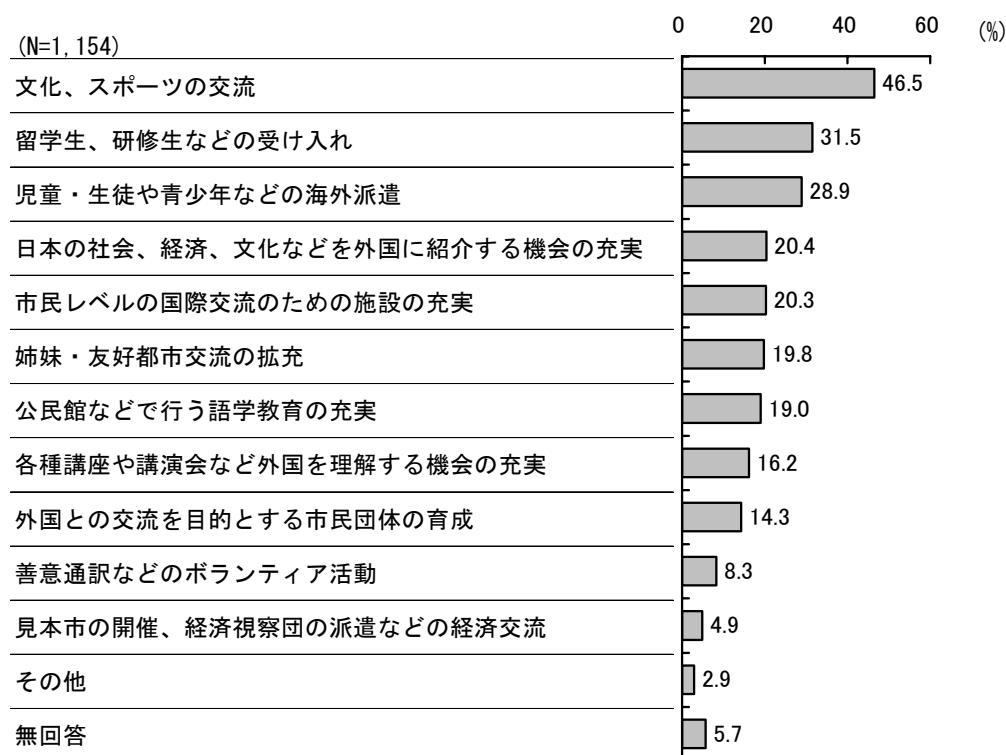
各国の女性との交流や
情報提供など、国際
交流の推進



性別にみると、多くの項目は女性が男性を上回っているが、男性は学校や職場、また社会全体として、男女共同参画意識の啓発についての項目で女性を上回っている。

年代別にみると、育児、就労に関する項目は年代が低い方が高く、年代が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられる。「高齢者や病人の介護制度や施策の充実」は年代が高い方で割合が高くなっており、50代以上はいずれも過半数の回答で、それぞれの年代ごとに1位の項目となっている。

問19 国際交流を活発にしていきたいため、今後、行政が特に力を入れるべきことは、次のうちどれだと思いますか。(3つまで○)



国際交流の活発化に向けて「文化、スポーツの交流」が最も多く求められている。男性は交流事業で女性より高く、女性は交流のための準備で男性より高い。

国際交流を活発にするために行政が力を入れるべきことは、「文化、スポーツの交流」が46.5%で最も多く、次いで「留学生、研修生などの受け入れ」が31.5%、「児童・生徒や青少年などの海外派遣」が28.9%、「日本の社会、経済、文化などを外国に紹介する機会の充実」が20.4%、「市民レベルの国際交流のための施設の充実」が20.3%の順となっている。

次頁のグラフのように性別にみると、上位となっている項目は、6ポイント前後、男性が上回る傾向がみられる。内容としては交流事業で男性の割合が高く、女性はその準備段階の充実で男性を上回っている。

年代別にみると、70歳以上は回答が少ない傾向にある中、「日本の社会、経済、文化などを外国に紹介する機会の充実」は60代と並んで、多くなっている。

【属性別】

文化、スポーツの交流

留学生、研修生などの受け入れ

児童・生徒や青少年などの海外派遣

日本の社会、経済、文化などを外国に紹介する機会の充実

